5

16世紀前半の医学学習指南書

澤井　直
順天堂大学医史学研究室

16世紀前半に出版された3冊の医学学習指南書においてどのような医書が学習用に推奨されたかを検討する．

1520年にウィーン大学医学部のマルティン・シュタインペイスは『医学における学習と読解のため方法について』書籍を著した．医師になるまでの5年間と医師になった直後の数年間で学ぶべきことについて概要を説明し，具体的な著者名や書名を挙げている．

学生として学ぶべきことして挙げられるのは，当時のウィーン大学の教育カリキュラムを反映している．中世ヨーロッパの医学部での教育に使用されたことが知られている，アヴィケンナ『医学典範』とサレルノ医学校で編まれた教科書集『アルティセラ』が中心となっている．これらの重要書籍を学ぶためにシュタインペイスは西欧の医師による注釈書を用いることも勧めている．しかし，注釈書の使用は必須ではなく，財布の事情が許せばという意味で「望む場合に」と但し書きを加えている．この但し書きから，シュタインペイスの執筆意図はカリキュラムと講義で使用する書籍を挙げることではなく，実際に何を読むのかは学習者に委ねつつも，学習者に推奨書籍を提示するということにあったと解することができる．

学生として学ぶべきとされているのは中世の教育と相違しないが，新米の医師にはより多くの知見を幅広い著者から学ぶように勧め，入手可能になって日が浅いサヴォナローラやヴィラノヴァのアルノーなど比較的新しい著者やガレノス全集も挙げている．また，医師として現場に出るときの振る舞いや治療に失敗する原因なども挙げている．

イァコブス・シルヴィウスの『ヒッポクラテスとガレノスの著作を読む順序とその順序の理由』（1541）はヒッポクラテスとガレノスの全著作を生理，養生，病理，治療へ分類し，それぞれの分野で読む順序を提示している．パリ大学におけるギリシア医学古典の復活に貢献したシルヴィウスであるが，ギリシア古典だけで事足りるとは考えていなかった．ヒッポクラテスとガレノスでは曖昧にしか提示されなかったことや不十分な見解しか見いだされていなかったことについては後代の著作を見るべきだとし，ギリシア，アラビア，ローマの医師や時代の近い医師の名も挙げている．著作の末尾では各分野の代表的な著作を14点挙げ，医学部の講義で理解され，学習者が読むべき著作を提示している．

イァヌス・コルナリウスは医学校で正しい医学学習に関する演説を行い，それが1543年に『医学の正しい学習について』として出版された．1556年にはコルナリウスによる医学の概説書『医学あるいは医師』との合冊としても出版された．

ギリシア医学の称揚者として知られ，ヒッポクラテスやガレノスの翻訳・注釈を著したコルナリウスは，アラビアの医師をギリシアの医学者の知識を誤って解釈し，余計なものを加えたとして強く批判する．代わりに推奨するのが，ガレノスとヒッポクラテスを学ぶことであり，他にはオリバシウス，ディオスコリデス，ケルスス，プリニウスなどの古代の著者を挙げる．演説に基づく書籍であるためと考えられるが，具体的な書名についての言及はない．

コルナリウスはギリシア医学を絶対的な権威とはしていない点には注意が必要である．『医学の正しい学習について』において解剖の必要性を強調し，さらに1556年の医学概説書『医学あるいは医師』の部分ではヴェサリウスが多くの発見を行なったことに言及していることから，ガレノスの解剖学の知見に誤りがあることを受け入れたと考えられる．植物図の使用に対して批判したコルナリウスであるが，『医学あるいは医師』がヴェサリウスの解剖学書を出版したオポリヌスによる出版であることも含め，解剖図に重きを置いたヴェサリウスの解剖書を認めている点は興味深い．

〈本研究はJSPS科研費18K00265の助成を受けたものです．〉